

卒後臨床研修室

1. スタッフ（2024年4月1日現在）

室 長（教授）	大河原 晋
副 室 長（教授）	山口 泰弘
	桑田 知之
	野田 弘志
副 室 長（講師）	菅原 大輔
	眞山 英徳
副 室 長（病院助教）	田村 洋行
	鈴木 伶奈
ジュニアレジデント	60名
事 務（総務課）	
課長補佐（兼）	金井 英美
嘱 託	島村麻衣子
派遣職員	1名

2. 特徴

当センター卒後臨床研修室は2004年4月に設置された。初代室長は斎藤宗靖 前教授（循環器科）で、2004年10月から河野幹彦 前教授、2008年4月から加計正文 前教授、2016年4月から菅原斉 教授、2021年4月から大河原晋 教授が担当している。当センターは、「患者にとって最善の医療をめざす総合医療」と「高度先進医療をめざす専門医療」の一体化とその実践を目標とし、各診療科間の垣根は非常に低く、気軽にコンサルトできる研修体制となっている。初期臨床研修プログラムには、一般研修プログラム（募集定員24名）、小児科研修プログラム（同2名）、産婦人科研修プログラム（同2名）、ホスピタリスト重視プログラム（同2名）がある。一般研修プログラムは、選択科目を工夫することで、総合医学オープン、内科系、外科系、外科系専門科、救急科の各コースに対応している。自治医科大学附属病院、さいたま市民医療センター、さいたま赤十字病院等の多くの研修協力病院と連携し、臨床研修を実施している。

3. 実績・クリニカルインディケーター

2004年度より必修化された卒後2年間の臨床研修の管理が主たる業務である。2024年の年間スケジュールを示す。

3月

- ・研修管理委員会（メール開催）
- ・研修修了式（3月18日）

4月

- ・オリエンテーション（4月1日～4月5日）
- ・総合回診開始（毎週水曜日午後4時から）

- ・研修医セミナー開始（総合回診終了後、毎週水曜日午後4時40分から）

- ・研修委員会（第3金曜日午後4時45分から）

7月

- ・初期臨床研修医応募受付開始（7月1日から8月2日）
- ・研修内容説明会（7月27日）

8月

- ・初期臨床研修医採用面接試験（8月後半10日程）

10月

- ・マッチング組み合わせ発表

11月

- ・オンライン研修説明会

1) 医師臨床研修プログラムの企画・立案

当センターにおける医師臨床研修は従来から多科ローテート研修を行ってきた。必修化されてからも、これまでの経験を生かし、かつ厚生労働省の基準に沿ったスーパーローテート方式による臨床研修を行っている。当センターは130万人都市さいたま市に位置し、その中心的医療施設としての地位を確立している。また、大学病院と一般総合病院の両方の性格を併せ持つ病院でもあり、多くの患者さんに恵まれていることから、診療を通して総合的な視野に立った臨床経験を積むことができる。日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応ができる基本的診療能力を身につけるとともに、医師としての人格を涵養することをめざしてプログラムを企画・立案している。

2020年度の医師臨床研修の大規模改正により、必修科目は、外科、小児科、産婦人科、精神科（各4週以上）、内科（24週以上）、救急科（12週以上、4週まで麻酔科に振替え可）、地域医療（8週以上）、一般外来（4週以上）に準拠したプログラムに変更した。

2) 初期臨床研修医の教育

①総合回診

毎週水曜日、内科系病棟で研修中の初期臨床研修医が1例20分の症例提示と討論を行う総合回診を実施した。総合回診では内科系各科の指導医・上級医による評価を受けることで、レジデントは症例提示技術を向上させることができた。また、研修医同士の相互評価とそのフィードバックを開始した。

なお、2016年8月から、発表内容が「m3.com」ウェブサイト「研修最前線」に掲載されている（表1）。この連載記事は、関係診療科の理解と協力をいただき、

「m3.com」編集部が、研修医による総合回診でのプレゼンテーションを取材記事とし、大河原と菅原が校正したものである。

②研修医セミナー

2019年度より研修医セミナーを総合回診終了後の水曜日、午後4時40分から約20分間で開催している。研修医の臨床的な知識及び技術の向上を図ることを目的としている。セミナーのテーマは研修医へのアンケート結果を踏まえ、研修医が必要としている内容となるよう、各診療科にご協力いただいている。(表2)

③米国人医師による研修指導

これまで当センター独自の研修指導として、Wilfred Fujimoto客員教授 (University of Washington名誉教授) による年2回(2週間/回)の研修指導(英語による症例検討、クリニカルクラークシップ)を行ってきた。2023年度にFujimoto教授ご退官に伴い、医学英語教育の継続性について検討を重ねた。2024年度はDr. Ehab Daoud (ハワイ大学医学部准教授)を招聘し、英語カンファレンスを実施し、好評を得た。

④臨床推論(CBL)の開催

2023年度から新たな試みとして、卒後臨床研修室の副室長を中心に、初期臨床研修医を対象にした診断学の指導(CBL)を開催している。(CBL: Case based Learning)

実在した症例をもとにしたトレーニングを週1回、対面での講義・指導を行い、好評を得ている。

3) 研修医の評価

2020年度から、卒後臨床研修医用 オンライン臨床教育評価 システム (PG-EPOC) を利用し、研修医と指導医が双方向で研修内容及び研修環境を評価している。優秀であった研修医を選出し、「優秀レジデント賞」

(2011年度から開始) として延べ4名の研修医を表彰した。

また、2018年度から指導医のモチベーション維持・向上を図ることを目的として「優秀指導医賞」を創設し、2024年度は研修医により推薦された6名の指導医を表彰した(表3)。

4) 実績

他大学の見学生と実習生を370名受け入れた。研修内容説明会参加者は137名であった。ZOOMを利用して、月2回のオンライン研修説明会を実施し、参加者は延べ95名であった。

初期臨床研修医には、「埼玉県医学会総会」、「医学生・研修医の内科学会ことはじめ」や日本内科学会関東地方会などでの発表を奨励している。

2024年4月には30名の新研修医を迎えた。また、2025年4月に研修を開始する研修医募集には応募者延べ数130名から本学卒業予定者2名を含む30名がマッチングし、内定者全員が医師国家試験に合格した(表4)。

なお、2025年3月に初期臨床研修修了後当センターの専門研修へ進んだ研修医は16名(53.3%)であった。

今後も優秀な研修医を確保するために、プログラム改善はもちろんのこと、熱心かつ優秀な指導医の育成や研修環境のさらなる整備が必要と考えられる。

2025年度に向けて、研修医教育の目標は、社会人としての人格教育について重点的に行いたい。今後は、医師の働き方改革への対応が必要である。

(卒後臨床研修室)

Email: rinshoukenshu 2 @omiya.jichi.ac.jp

電話: 048-648-5382 内線2569

(表1) m3.com「研修最前線」2024年掲載記事一覧

【研修最前線】タイトル	研修医	【研修最前線】タイトル	研修医
第158週 2024年1月11日～1月19日 vol.1 「連絡が取れない」自宅で警察に発見された糖尿病患者 vol.2 粘膜が真っ黒?! DKA患者の内視鏡で認められた黒色変化 vol.3 “黒色食道”の黒色粘膜はなぜ食道胃接合部で途絶するのか vol.4 「なぜ糖尿病の通院を自己中断したか」を尋ねたか	篠澤絵里菜	第167週 2024年10月18日～10月22日 vol.1 急性胆管炎の患者から検出された魚類感染症の原因菌 vol.2 E. tardaによる胆管炎・菌血症、対応のポイントと反省点	安藤史織
第159週 2024年1月23日～1月26日 vol.1 遭遇機会の多い急性膵炎、症例から学ぶ診療のポイント vol.2 この急性膵炎に蛋白分解酵素阻害薬は必要だったのか	伊藤恵祐	第168週 2024年10月18日～11月19日 vol.1 子宮内膜原発の卵黄嚢腫瘍の診断と治療経過 vol.2 子宮内膜原発の卵黄嚢腫瘍、術後の治療は？観察は？	菅谷聡美
第160週 2024年2月6日～2月13日 vol.1 コロナ療養中に起こった両下肢痛としびれの原因 vol.2 緊急手術で多量の血栓を回収、術後1カ月の経過 vol.3 本症例の多発血栓の原因は何だったのか	伊藤岳晟	第169週 2024年12月12日～12月24日 vol.1 急な消化器症状と炎症反応、急性腎障害の原因を探る vol.2 サルモネラ腸炎から敗血症性ショックに至った背景 vol.3 サルモネラ菌血症の発症リスクと診療のポイント vol.4 サルモネラ菌血症に遭遇したときの注意点	山形慧
第161週 2024年3月8日～3月12日 vol.1 体育祭後の男子高校生、腰痛と食欲不振の原因 vol.2 安易にNSAIDsを処方しない！ALPE診療の注意点	井上崇		
第162週 2024年3月15日～3月22日 vol.1 悪性腫瘍疑い患者、血尿・血便の原因を探る vol.2 後天性血友病A、確定診断の手順とインヒターパターンの見分け方 vol.3 後天性血友病A、治療の実際と効果判定を学ぶ	澁谷直人		
第163週 2024年4月3日～4月9日 vol.1 既往のない40歳代男性に生じた発熱と呼吸困難の原因 vol.2 「風呂場の近くに腐木がある」、現地調査の結果は vol.3 分類変わった過敏性肺炎、診断と治療を学ぶ	池野信介		
第164週 2024年5月24日～5月28日 vol.1 急な腹痛と下痢、追って出現した血便の原因 vol.2 抗菌薬関連出血性大腸炎に内視鏡を行う理由	相馬芽唯		
第165週 2024年6月18日～6月28日 vol.1 徐々に拡がった左上下肢の筋力低下、心エコーに写った疣腫 vol.2 片麻痺から見つかったIE…127日の長い経過 vol.3 「積極的に感染性心内膜炎を疑う」具体的にはこうする vol.4 ABPC耐性に脳膿瘍……抗菌薬選択に難渋した理由	山本快亮		
第166週 2024年8月27日～9月6日 vol.1 飢餓状態からの栄養調整——リフィーディング症候群の対応 vol.2 肝障害とイレウス併発で栄養調整困難—死亡までの経過 vol.3 リフィーディング症候群、治療の実際 vol.4 リフィーディング症候群というリスクをまず認識せよ	豎山碧生		

(表2) 2024年 研修医セミナー 実施一覧

日程			タイトル	講師名	備考
1月	10	水	胸腔ドレナージ	佐藤 誉哉 先生	呼吸器外科
	17	水	脳神経外科疾患への対応	内山 拓 先生	脳神経外科
	24	水	よくある骨折とその対応	戸田 義夫 先生	整形外科
	31	水	引き算のせん妄予防・治療 —delirantsを見つけ出すために—	齋藤慎之介 先生	メンタルヘルス科
2月	7	水	脳梗塞の急性期治療 アップデート	山田 健嗣 先生	脳血管内治療部
	14	水	肝門部胆管がんの症例とオペレコについて	渡部 文昭 先生	一般・消化器外科
	21	水	人工呼吸器 考え方	小野 将平 先生	ICU
	28	水	新鮮外傷の処置	山本 直人 先生	形成外科
3月	6	水	下腿潰瘍の鑑別	松坂 美貴 先生	皮膚科
5月	1	水	脳神経外科疾患への対応	内山 拓 先生	脳神経外科
	8	水	整形外科の基本	長尾 一樹 先生	整形外科
	15	木	日常診療で出会う泌尿器疾患	嘉指 公輔 先生	泌尿器科
	22	金	気管切開とは? 適応と種類を解説	澤 允洋 先生	耳鼻咽喉・頭頸部外科
6月	5	土	CV穿刺	神尾 直 先生 加藤 看護師	ICU
	12	日	壊死性軟部組織感染症の診断と治療	山本 直人 先生	形成外科
7月	3	月	患者の運命を決める選択 ～あなたは患者をハッピーエンドに導けるか?～	今井 賢 先生	産婦人科
	17	火	眼科救急疾患	齊間 至成 先生	眼科
	31	水	じんましん	福井 伶奈 先生	皮膚科
9月	11	木	脳動脈瘤の血管内治療	山田 健嗣 先生	脳血管内治療部
	18	金	消化管出血	三浦 孝也 先生	消化器内科
	25	土	複雑だが面白い肺がん治療のダイジェスト	椎原 淳 先生	呼吸器内科
10月	2	水	急性心不全の評価と初期対応	長谷川宏子 先生	循環器内科
	9	水	“血球増多” へのアプローチ	木村 俊一 先生	血液科
	16	水	自己抗体の考え方	長嶋 孝夫 先生	リウマチ膠原病科
	23	水	最近経験した教訓的な4症例	林 夢夏 先生	脳神経内科
	30	水	糖尿病治療(外来)について ～Metforminから考える～	船崎 俊介 先生	内分泌代謝科
11月	6	水	けいれん～熱性けいれんを中心に～	大竹 直人 先生	小児科
	20	水	引き算のせん妄予防・治療 —delirantsを見つけ出すために—	齋藤慎之介 先生	メンタルヘルス科
	27	水	研修医のための英語論文執筆のすすめ	大城 久 先生	病理診断科
12月	4	水	蛋白尿の見方	平井 啓之 先生	腎臓内科
	11	水	薬物中毒への1st STEP	熊井戸悠喬 先生	救急科
	18	水	頭蓋内出血のピットフォールと放射線医療安全	高橋 秀紀 先生	放射線科
	25	水	気胸 胸腔ドレーン	須藤 圭吾 先生	呼吸器外科

優秀 レジデ ント賞	総合評価部門	矢野七海希
	学会発表部門	川島 由莉
	病理解剖部門	小村 祐貴
	同僚評価部門	斉藤 開
優秀指導医賞	救急科	森 仁志 先生
	救急科	田村 洋行 先生
	救急科	平良 悠 先生
	脳神経内科	藤田 和樹 先生
	総合診療科	森 詩織 先生
	大宮双愛病院	川口 寛裕 先生

[illegible]